

ギガビットの戦い（第3回）

～ Google Fiberがもたらしたもの ～

執筆者 KDDI 総合研究所 特別研究員 高橋陽一

▼記事のポイント

<サマリー>

Google の超高速インターネットサービス「Google Fiber」が米国のブロードバンド市場に旋風を巻き起こしている。サービス提供地域はまだ限られているが、既に導入された地域では早くもビジネスを効率化させ、都市を活性化させたなどの「Google Fiber 効果」が伝えられている。

また競合他社も増速や料金値下げなどで対抗する動きを活発化させ、都市によっては Google よりも他社の方が先行してギガビットサービスを開始する例も出ている。これまで先進国の中では遅れを取っていた米国のブロードバンドが急速に改善しつつある。

一方、Google Fiber が未だに導入されていない地域では、いつになったら使えるようになるのかが人々の関心事になっており、早期の導入を望む声が高まっているが、大方の期待とは裏腹に、サービス提供地域の拡張がなかなか進んでいないという側面もある。それどころか最近では Google Fiber の拡張凍結や要員削減の動きさえ出ている。

本レポートは 4 回に渡り、Google Fiber が米国のブロードバンド市場に与えた影響について考察する。第 1 回目では、Google Fiber の誕生と足跡をたどりながら、このギガビットインターネットサービスが地域やビジネスにもたらした「Google Fiber 効果」について考察した。第 2 回目では、Google Fiber によって刺激を受けた競合他社のサービスに焦点を当て、変革しつつある米国のブロードバンド事情を探った。第 3 回目となる本稿では、Google と AT&T や Comcast など競合他社が展開を加速させる状況を確認する。そして、最終回では各社の最近の動向をたどりながら、米国のブロードバンドの最新事情を明らかにし、今後の方向性を探る一助とする。

<主な登場人物>

Google AT&T Comcast Time Warner Cable/Charter Verizon

<キーワード>

ブロードバンド ギガビット 光ファイバ FTTH/FTTP DOCSIS3.0 ワイヤレスファイバ
pCell

<地域>

米国

The Gigabit Battle (Part3) - What Google Has Brought Us

TAKAHASHI, Yoichi

Research Fellow, KDDI Research Inc.

Abstract

Google Fiber, the ultra high-speed internet service provided by Google, is shaking up the US broadband market. Its service areas are still limited, but those who live in the areas where the service has been introduced are, even in this early stage of implementation, reportedly enjoying the "Google Fiber Effect," such as improved efficiency for businesses and revitalization for cities and communities. Google's competitors, on the other hand, are actively hitting back by increasing the speed and lowering the rates for their broadband services. In some cities, competitors lead Google in delivering their gigabit services. While broadband in the US has long been lagging behind many other advanced nations, the situation is now rapidly improving. However, for those who live in the areas where Google Fiber has not yet arrived, the big question is "When will it be my turn?" In spite of the fact that many people are longing for its early introduction, the service has not rapidly expanded. What is worse, Google Fiber recently went so far as to suspend its expansion and to slash its workforce.

This three-part report discusses the impact of Google Fiber within the US broadband market. Part 1, traces the origin and development path of Google Fiber, and attempts to identify the "Google Fiber Effect" that has been experienced in cities and by businesses. Part 2 focuses on competitor services inspired by Google Fiber, and explores the changing US broadband market. Finally, Part 3 covers recent developments to the array of company services to illustrate the current status of the US broadband market, and to help give readers an insight into future developments.

Key Players

Google AT&T Comcast Time Warner Cable/Charter Verizon

Keywords

broadband gigabit optical fiber FTTH/FTTP DOCSIS3.0 wireless fiber
pCell

Regions

US

目次

ギガビットの戦い（第3回） ～ Google Fiber がもたらしたもの ～ 1

1 はじめに..... 4

2 ギガビットの戦いが加速..... 4

2-1 Google Fiber は4都市圏18都市に拡張予定..... 4

2-2 AT&T がカンザスシティで Google に対抗..... 5

2-3 Grande がサンアントニオでギガビットを開始..... 6

2-4 AT&T が GigaPower をクパチーノに拡張..... 7

2-5 AT&T が GigaPower を次々と拡張..... 7

2-6 Comcast が 2Gbps の FTTH でギガビット参入..... 8

2-7 ノースカロライナ州でギガビット競争が活発化..... 10

2-7-1 RST Global は既に 100Gbps も提供可能..... 10

2-7-2 Frontier が静かにギガビット参入..... 10

2-7-3 AT&T がギガビットをシャーロットに拡張..... 11

2-7-4 CenturyLink はビジネス顧客向けに限定..... 11

2-7-5 TWC は増速で防戦..... 12

2-8 AT&T がシカゴ都市圏の GigaPower を拡張..... 12

2-9 Google Fiber が拡張予定と可能性を発表..... 12

2-10 AT&T が GigaPower をサンアントニオに拡張..... 14

2-11 AT&T が GigaPower の拡張を加速..... 15

2-12 Comcast が DOCSIS 3.1 で 1Gbps を提供..... 16

2-13 Google Fiber が大都市への拡張を検討..... 17

2-14 Google Fiber がサンフランシスコに拡張..... 18

2-15 Sonic がサンフランシスコでギガビット開始..... 18

2-16 Google Fiber のハンツビル拡張に懸念の声..... 19

2-17 Google Fiber のシリコンバレー拡張に難題..... 20

2-18 ルイビルが Google Fiber に有利な決定..... 21

2-19 Google Fiber がナッシュビルに拡張..... 22

2-20 Verizon の Fios 拡張再開と One Fiber 戦略..... 23

3 おわりに..... 24

1 はじめに

本レポートは4回に渡り、Google Fiberが米国のブロードバンド市場に与えた影響を探る。第1回目では、Google Fiberの誕生と足跡をたどりながら、このギガビットサービスが地域やビジネスにもたらした「Google Fiber効果」について考察した。

第2回目では、Google Fiberに対抗して、AT&T、Comcast、Cox Communications、Time Warner Cable (TWC) /Charter、Verizonなどの既存事業者がどのような動きを示したかに焦点を当て、2014年末までのギガビット競争における各社の主な成果をまとめた。

第3回目となる本稿では、主として2015年のGoogleと競合事業者のギガビットサービスの動向を概観する。

第4回目は最終稿として、2016年後半以降のGoogleと競合事業者の状況を確認し、変革しつつある米国のブロードバンドの最新事情と問題点を明らかにするとともに、今後の方向性を探る一助とする。

2 ギガビットの戦いが加速

Google Fiberが2010年に発表されてから既存事業者もブロードバンドの増速や料金値下げなどの対抗策を徐々に打ち出し、その動きは次第に活発化した。特に2014年は「ギガビットの年」と言われるほど、1Gbpsサービスの開始や計画発表が相次いだ。

ギガビットの戦いは2015年に入ってから加速し、提供地域の拡張や新たな事業者の参入など、熾烈な戦いが繰り広げられるが、その内容や方向性には変化が現れるとともに、拡張に伴う問題点なども明らかになってくる。

2-1 Google Fiberは4都市圏18都市に拡張予定

Google Fiberは2015年1月、新たに4都市圏の18都市にサービスを拡張すると発表した。4都市圏とはジョージア州アトランタ、ノースカロライナ州シャーロット、テネシー州ナッシュビル、ノースカロライナ州ローリー・ダーラムという南東部の地域（図表1）。

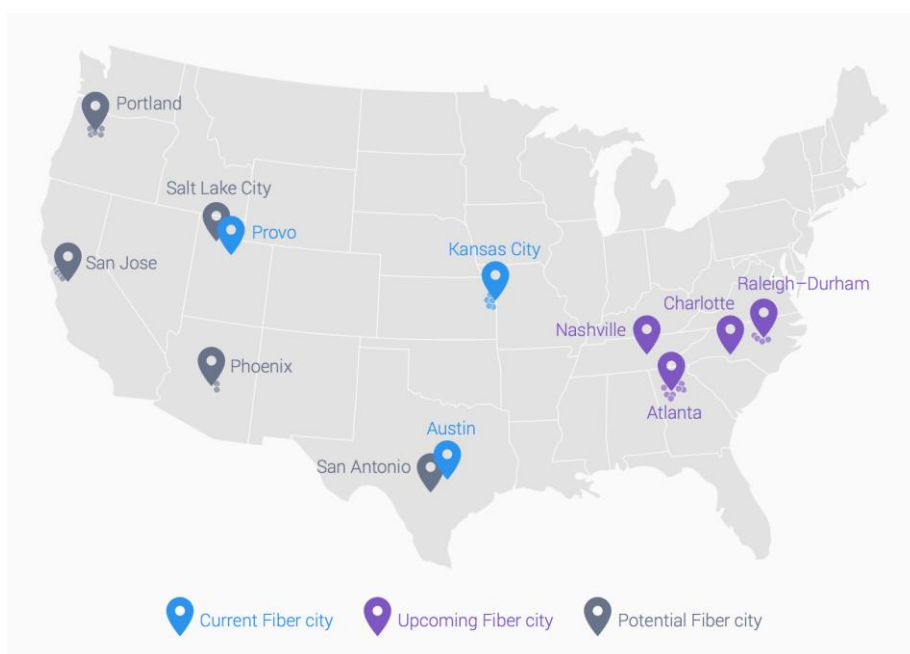
この4都市圏は、Google Fiberが拡張の可能性を検討する地域として2014年2月に発表した9都市圏の一部で、Googleと各自治体等との協議が整い、正式に拡張することに決まったもの。

この発表時点では具体的なスケジュールは明らかにされなかったが、各自治体等とさらに協議を行い、電柱や管路など既存のインフラが使える部分の詳細地図を作成し、新たに構築が必要な部分について現地調査を行って全体の詳細地図を作成するとされている。その上でネットワークを設計し（ここまでに数か月を見込む）、そ

これからファイバ敷設工事を開始するという段取りで、サービス開始までまだ先は長い。

なお、Google Fiberは、拡張可能性を検討する地域として挙げられている都市圏のうち、今回の拡張予定に入らなかった5都市圏（フェニックス、ポートランド、ソルトレイクシティ、サンアントニオ、サンノゼ）についても引き続き検討を行うこととした。

【図表1】Google Fiberの提供地域（2015年1月時点）（青は提供中、紫は拡張予定、グレーは拡張可能性を検討）



（出典）Googleの発表文書

2-2 AT&TがカンザスシティでGoogleに対抗

AT&Tは2015年2月、カンザスシティ都市圏の一部でGigaPowerを開始したと発表した。AT&TのGoogle Fiberへの対抗という意味ではオースティンに次いで2番目の都市圏となり、またカンザスシティにおける1Gbpsサービスとしては、Google Fiber、Consolidated Communicationsに次いでAT&Tが3番目の事業者となった。

AT&Tは1Gbpsサービスの威力を示すため、25曲の音楽を1秒以内、すなわちボリュームを上げる前にダウンロードできる、好きなHDムービーを36秒以内、すなわちどの映画を観ようかと迷う時間の何分の1かの時間でロードできるなどと宣伝した。

カンザスシティにおけるGigaPowerの1Gbpsサービスの単体料金はGoogle Fiberと同額の月70ドルに設定された。ただし、この料金でサービスを利用するためには

「Internet Preferences¹」というオプションを選択することが条件とされていた。

オースティンで初めてGigaPowerを開始した際にもこの条件は付いていたが、そのときは特に話題にならなかった。発表文書の本文中にはその説明がなく、下の方に注として簡単に記されていただけなので見過ごした人も多かったのではないかと。カンザスシティでのサービス開始を機にこの条件が目され、騒がれるようになった。

「Internet Preferences」というのは、AT&Tが利用者の興味のある分野を分析してそれに関連した広告を表示させるためにウェブサイト閲覧データ等の個人情報収集するもので、このオプションを選択すると、それに同意したこととなる。

これに同意すると、ユーザのインターネットトラフィックはAT&Tの分析用プラットフォームを経由することとなるため、ユーザのブラウザの設定如何に関わらず、AT&Tは必要なデータを取得することができる。

これに同意したくない顧客はこのオプションを選択しないこともできるが、その場合、1Gbpsサービスの単体料金は月99ドルとなる。すなわちプライバシーを守りたければ月29ドルを余計に支払わされることになる。

さらに実際の料金差はこれだけでは済まなかった。通常は月額料金の他にモデムレンタル料が月7ドルと設置一時金が99ドルかかるところ、上記オプションを選択すればこれも免除されることになっていた。

一時金を1年で償却するとして月割りすると、このオプションを選択するとしないとでは実質的に月44ドル以上の差となる。TVサービスとのバンドルの場合にはさらに料金差が大きくなり、実質的に月66ドルの差になるとの試算もされている²。

このオプションについては多くのメディアで取り上げられ、AT&Tがカンザスシティにギガビットを拡張したという事実よりも、プライバシーの問題やそれを守りたい顧客に高額な追加料金を課しているということの方が大きな話題になった。

この時点でGigaPowerを提供中の地域はオースティン、ダラス、フォートワース、カンザスシティ、ローリー・ダーラム、ウィンストン・セーラム（ノースカロライナ州）の6都市圏となり、Google Fiberよりも少しリードした。

2 - 3 Grandeがサンアントニオでギガビットを開始

テキサス州でブロードバンドサービスを展開するGrande Communicationsは2015年3月、同州サンアントニオにおいて他社に先駆けて1Gbpsサービスを開始した。同社としてはオースティンに次いで2番目の提供都市となる。

¹ このオプションは2016年10月に廃止された。

²

<https://gigaom.com/2015/02/19/dont-let-att-mislead-you-about-its-29-privacy-fee/>

1Gbpsのサービス「Power 1000」の料金は、オースティンと同様、月64.99ドルで、Google Fiberよりも5ドル安く設定した。地域により1Gbpsが提供できないところでは最速で400Mbpsの「Power 400」となるが、それでも同地域の他のどの事業者よりも速かった。

他に300Mbpsで月54.99ドル、200Mbpsで月44.99ドル、50Mbpsで月34.99ドル、15Mbpsで月29.99ドルというプランも用意した。

2-4 AT&TがGigaPowerをクパチーノに拡張

2015年3月、AT&TはGigaPowerをシリコンバレーのクパチーノに拡張した。同サービスの提供地域としては西海岸で初めての都市であり、同市にとっても初めてのギガビットサービスとなった。

同市はAppleの本拠地であり、Googleの本拠地であるマウンテンビューにも近い。Google Fiberはこの一帯をカバーするサンノゼ都市圏を拡張可能性の検討地域として2014年2月に発表していたが、まだ正式に拡張するとは決めていなかった。

クパチーノにおけるAT&Tの1Gbpsサービスの料金は単体で月110ドル。カンザスシティやオースティンでは月70ドルだったが、クパチーノにはGoogle Fiberが来ていないので、40ドル高く設定された。

さらに、カンザスシティやオースティンではGigaPowerを安く利用できる代わりにプライバシーを犠牲にする「Internet Preference」を選択しなければならなかったが、クパチーノでは月110ドルを支払ってもなお、このオプションを選択しなければならなかった。プライバシーを守りたい顧客はさらに29ドルを上乗せして、月139ドルを支払うこととなる。

しかもAT&Tが収集する個人情報、ウェブサイトの検索・閲覧履歴やSNS上の活動だけでなく、オンライン上のすべての行動が対象になることがわかり、プライバシー保護団体なども警戒を強めた。

2-5 AT&TがGigaPowerを次々と拡張

AT&Tは2015年4月、GigaPowerの提供地域の拡張を矢継ぎ早に発表した。

まずは4月6日にヒューストンとその周辺地域でのサービス開始を発表した。1Gbpsサービスの料金は月110ドル。同市にはGoogle Fiberは入っておらず、拡張予定どころか可能性の検討もされていなかったため、「Internet Preferences」を選択してもこの料金となる。

次いで4月13日にはアトランタとその周辺地域でも開始したと発表した。アトランタにおける1Gbpsサービスの料金は月120ドル。何とヒューストンよりも10ドル高い。しかも「Internet Preferences」を選択するという条件付きだ。

さらに4月20日にはシカゴ郊外の数都市でも開始したと、シカゴ市内でもその

夏には開始予定であることを発表した。シカゴ都市圏における1Gbpsの料金もアトランタと同じく「Internet Preferences」を選択するという条件付きで月120ドル。

これでGigaPowerの提供地域は10都市圏（図表2）となった。この時点でのGoogle Fiberの提供地域はまだ3都市圏（カンザスシティ、プロボ、オースティン）なので、AT&Tが少し引き離れた形となった。

【図表2】 GigaPowerの提供地域（2015年4月時点）



（出典） AT&Tの発表文書

2-6 Comcastが2GbpsのFTTHでギガビット参入

Comcastは2015年4月、インターネットの速度が最大2Gbpsという「Gigabit Pro」でギガビット競争に参入することを発表した¹。

FTTH方式で、下り、上りとも最大2Gbpsとなる。同年5月にアトランタで開始し、特定の区域に限るようなことはせず、提供地域においてはできるだけ広範囲に提供の方針を示して、需要の大きいところだけに提供するGoogle方式を暗に批判した。

また同年4月、フロリダ州のマイアミ、フォートローダーデール、ウエストパームビーチ、ジャクソンビルにも拡張すると発表した。アトランタと同じく同年5月に提供を開始する予定。顧客数は130万件以上を見込む。

それから2週間後、同サービスをカリフォルニア州のサンフランシスコ・ベイエリアやその他の都市にも6月中に拡張することと、250Mbpsのメニュー「Extreme 250」を追加することを発表した。

2Gbpsのサービスを何に使うのかについては、大容量のファイルを転送する顧客や、ビデオやゲームで超高速のストリーミングを利用する顧客などを想定している

¹

<http://corporate.comcast.com/news-information/news-feed/comcast-begins-rollout-of-residential-2-gig-service-in-atlanta-metro-area>

としたが、2Gbpsならではの特別な使い方などは特に示されなかった。

その時点では2Gbpsサービスの料金はまだ発表されていなかったの、「顧客のウケは料金次第」としながらも、1Gbpsと2Gbpsの違いがわかる顧客がどれほどいるかわからないが、とにかく速いことだけは確か、とアナリストのTeresa Mastrangelo氏が述べている¹。

さらに同年5月には提供地域をチャタヌーガ（テネシー州）、シカゴ、ヒューストン、ノックスビル（テネシー州）、ポートランド、ツイン・シティーズ（ミネソタ州ミネアポリスとセントポール）、インディアナ州北東部、コロラド州、ユタ州、ワシントン州の一部にも拡張すると発表し、2015年末までに1,800万世帯をカバーする計画も明らかにした。

同年5月と6月に開始する予定だった地域へのサービス提供は7月にまでずれこんだ。技術的な理由ではなく、料金設定が難航していたようだ。

同年7月、Comcastは2Gbpsサービスの料金を発表して一部の地域（図表3）へのサービスを開始した。料金は月299.95ドル。この他に一時金として500ドルのアクティベーション料と500ドルの設置工事費がかかり、また税金やサーチャージ等も別途かかる。

【図表3】 Gigabit Proの提供地域（2015年7月時点）



（出典）Comcast/Ars Technica²

ただし、シカゴ、マイアミ、アトランタ、ナッシュビルなどの特定都市については、当面はプロモーションとして月159ドルで提供することとした。なお料金は単体サービスのものだけで、他のサービスとのバンドル料金は設定されていない。

¹ <http://www.mercurynews.com/2015/04/17/comcasts-superfast-2-gigabit-internet-takes-on-att-and-google/>

² <http://arstechnica.com/business/2015/07/comcasts-2gbps-internet-costs-300-a-month-with-1000-startup-fees/>

Comcastのそれまでの最上位プランは505Mbpsで月299.95ドル（地域によっては399.95ドル）というもの。それに比べると大幅な改善だが、一時金の高さに加え、設置工事に6週間から8週間、場合によってはそれ以上かかるという問題もあった。

また同年7月、ComcastはXfinityインターネットにおける他のメニューも拡充した。例えば「Blast!」プランが下り105Mbpsだったのを150Mbpsに増速し、下り75Mbpsの「Performance Pro」プランも導入した。

2-7 ノースカロライナ州でギガビット競争が活発化

Google Fiber がノースカロライナ州への拡張に動き始めたことで、この地域のギガビット競争がにわかに活発化した。主戦場は州都のローリーを含むローリー・ダーラム・チャペルヒル広域都市圏（通称「トライアングル」）と、同州最大の都市であるシャーロット。

「トライアングル」の各都市にはノースカロライナ州立大学（ローリー）、デューク大学（ダーラム）、ノースカロライナ大学（チャペルヒル）という全米有数の大学があり、この3校を中心とし、州政府・自治体、企業なども一体となって、東海岸の代表的な研究開発推進地域「リサーチ・トライアングル・パーク」を構成している。

この地域は主として固定電話がAT&T、ケーブルTVではTWCが縄張りにしており、Frontier CommunicationsやCenturyLinkなども一部地域に進出している。同地域でギガビットサービスを提供する可能性を最初に示したのはGoogleだったが、実際のサービス開始は他社が先行した。

2-7-1 RST Globalは既に100Gbpsも提供可能

シャーロット近郊のシェルビーに本社のあるRST Global Communicationsは2014年3月、Google Fiberが同地域にやって来る可能性が発表されたのに反応し、同社のネットワークは既に1Gbpsはもちろん、100Gbpsまでも提供可能であると発表した。

同社は2009年に設立されたスタートアップで、4年間かけて同州全域に3,000マイル以上に及ぶ光ファイバのバックボーンを構築していた。同社のアプローチは他社と異なり、顧客宅内への引き込みを光ファイバではなくWi-Fiで行う。

したがって、バックボーンに近接する顧客にはすぐにでもギガビットが提供可能な状態だった。「火曜日に申し込めば金曜日までに開始可能」と迅速性をアピールした。1Gbpsサービスの料金は単体で月99ドルに設定された。

2-7-2 Frontierが静かにギガビット参入

Frontierはダーラムの一部地域で2014年10月に他社に先駆けて1Gbpsサービスを住宅向けとビジネス向けに開始していた。サービス名称は「FiberHome」。FTTP方式で、料金は月219.99ドルと高めだ。

同社のネットワークは既に顧客の近所まで光ファイバが到達しており、ラストマイルの銅線部分を光ファイバに切り替えるだけで比較的容易にギガビットを導入することができた。

ただし、同社はサービス開始にあたり大々的な報道発表や宣伝などはせず、静かに開始した。というのは、同社はこれまで「1Gbpsサービスを望んでいる顧客はいない」と公言して、Google Fiberの展開に批判的だったからだ。

ほとんどの顧客にとっては3Mbpsから6Mbpsで十分であるとして、Googleが盛んに宣伝しているギガビットのメリットなどは誇大広告であり、顧客に対する冒涇だとまで言っていた手前、態度をコロッと変えることには抵抗があった。

料金がなくて宣伝もしなければ顧客がつくとは思えない。地元紙によれば、開始初日に1Gbpsサービスを契約した顧客は皆無で、500Mbpsのサービスに住宅用で1件とビジネス用で1件の申し込みがあっただけだったという¹。

2-7-3 AT&Tがギガビットをシャーロットに拡張

AT&TもGigaPowerを「トライアングル」の一部地域で2014年12月から提供していたが、2015年6月にはシャーロットの一部でも開始したと発表した。同市に拡張することは2014年7月には発表していたので、提供開始までに1年近くかかったことになる。

Google Fiberが同地域で拡張可能性の検討を始めたのを受け、2014年5月に同市が誘致に動き出し、Googleと同市職員との会合や現地調査などの活動が活発化した。これにAT&Tが反応し、同市への拡張を急いで決めて発表した様子が見える。

同市におけるAT&Tの1Gbpsサービスの料金はGoogle Fiberを意識して月70ドルに設定された。ただし、Google Fiberは同市へはまだ拡張予定の段階でサービス開始には至っていなかった。

2-7-4 CenturyLinkはビジネス顧客向けに限定

CenturyLinkも2015年5月、「トライアングル」でFTTP方式のギガビットサービスを提供する計画を発表したが、これはビジネス顧客向けのサービスに限ることとした。

同社は2013年からオマハ（ネブラスカ州）やラスベガスで住宅向けを含めてギガビットを提供していたが、顧客は1Gbpsよりも20Mbpsや40Mbpsを選択する傾向にあり、住宅向けにはそれで十分との判断に至ったようだ。

¹ <http://www.dslreports.com/shownews/Once-Decried-As-Hype-Frontier-Quietly-Offers-Limited-1-Gbps-131018>

2-7-5 TWCは増速で防戦

TWCはまだギガビットを提供していなかったが増速で防戦している。同社は2015年4月、シャーロットにおける高速インターネットサービス「TWC Maxx」の速度を最大6倍以上に高速化すると発表し、その夏から増速作業を開始した。

例えば「Standard」プランの下り速度は15Mbpsだったのを50Mbpsに、「Extreme」プランは30Mbpsだったのを200Mbpsに、「Ultimate」プランは50Mbpsだったのを300Mbpsに、それぞれ料金はそのまま増速した。

TWCの動きはギガビットではないにせよ明らかにGoogle Fiberの拡張計画に反応したもの。他のキャリアの動きとも重ね合わせ、「Googleの行くところ、競争あり」という法則ができたと言ってもいい、とConsumeristが評価している¹。

2-8 AT&Tがシカゴ都市圏のGigaPowerを拡張

AT&Tは、2015年4月にシカゴ都市圏の一部地域でGigaPowerを開始した際、シカゴ市内にも夏には開始すると約束していたが、その約束は同年6月に実行された。シカゴ市内の他、郊外の数都市にも拡張し、同年8月にもさらに数都市を追加した。

シカゴの住宅向けインターネットとしては初めての1Gbpsサービスとなった。同市のエマニュエル市長は、世界最先端のコネクテッドシティを目指していた同市にとって大きな前進であり、投資を促進し、雇用を創出し、街のスマート化に寄与するものとして歓迎した²。

シカゴ都市圏におけるGigaPowerの1Gbpsサービスの単体料金は月120ドルで、他に100Mbpsで月90ドルのメニューも用意した。1GbpsとTVサービスとのダブルプレイは30ドルの追加、固定電話も含めたトリプルプレイはさらに30ドルの追加となる。

2-9 Google Fiberが拡張予定と可能性を発表

2015年8月、Google Fiberは、これまで拡張の可能性を検討していたテキサス州サンアントニオについて、正式に拡張することに決定したと発表した。ホワイトハウスが主導する二つの低所得者支援制度（TechHire、ConnectHome）に同市が参加していることが大きな理由だとしている。

ちなみに同市で光ファイバ敷設工事が開始されたのは2016年4月のこと。発表から敷設工事の開始までに8か月かかっている。しかもこれはバックボーン構築の段階で、顧客へのサービス開始の目処はまだ立っていない。

¹ <https://consumerist.com/2015/04/10/time-warner-cable-promises-free-internet-speed-boost-to-charlotte-customers-before-google-moves-in/>

² <http://www.prnewswire.com/news-releases/u-verse-with-att-gigapower-launches-today-in-the-city-of-chicago-300104486.html>

また2015年9月、Google Fiberは、ケンタッキー州ルイビル、カリフォルニア州アーバインとサンディエゴへの拡張可能性を検討すると発表した。3都市に共通しているのは、市長がギガピットの誘致に熱心で、インターネットの普及や起業の促進にも積極的に取り組んでいるということ。

たとえば、ルイビルには「Code Louisville」というソフトウェア開発者育成プログラムがあり、学生には無料で提供している。同市のグレッグ・フィッシャー市長はGoogle Fiberの拡張可能性が発表された日に記者会見を開いて歓迎の意を表した。

同市長は、経済成長と技術革新にとってかつては道路、橋、水道、その他のインフラが重要な役割を果たしたように、今は高速インターネットが重要な役割を果たすとの考えから、2011年に就任して以来、ブロードバンドの速度を上げることを優先課題に挙げてきた。

まだ拡張可能性を検討するという段階で、これから協議を開始するところなので何も決まったわけではないが、Googleはこれまでに拡張可能性のある都市を見捨てたことはない、同市長は自信と期待を表明した。

さらに2015年10月、Google Fiberは、オクラホマ州オクラホマシティ、フロリダ州ジャクソンビルとタンパへの拡張可能性を検討すると発表した。この3都市は起業を積極的に推進しており、スモールビジネスの育成にもコミットしており、ハイテクのハブとして急成長している点が評価された。

【図表4】 Google Fiberの提供地域（2015年10月時点）（青は提供中、紫は拡張予定、グレーは拡張可能性を検討）



（出典） Googleの発表文書

2 - 1 0 AT&TがGigaPowerをサンアントニオに拡張

Google Fiberがサンアントニオに拡張することを発表してから1か月でAT&Tが動いた。2015年9月、AT&TはGigaPowerをサンアントニオに拡張した。この発表は同市の市長や市議らも出席する記者会見で行われた。同市も人材や起業の誘致で他の主要都市と張り合っていたところで、ギガビットに対する並々ならぬ期待が表明された。

市議の一人が「これでサンアントニオの消費者はインターネットを選ぶ際にポルシェとフェラーリの選択肢から選べるようになった」と声明文で述べた。同市ではGoogle Fiberはまだ開始されていなかったが、Grande Communicationsが先行して2015年3月にギガビットサービスを開始していた。

サンアントニオにおけるGigaPowerの1Gbpsサービスの料金はGoogle Fiberを意識して月70ドル。しかも発表から1週間後の9月28日にはサービスを開始するという迅速な動きを示した。

AT&Tはこの地域では既に光ファイバを顧客の近所のキャビネットまで敷設済みで、キャビネットから顧客宅内までを銅線から光ファイバに切り替えるだけの作業で済んだという事情が背景にある。

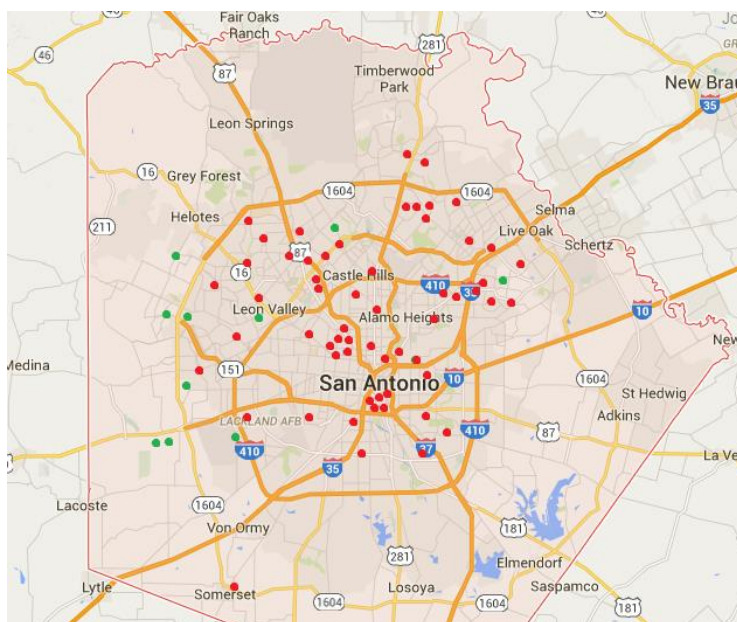
ただしAT&Tは同市でサービスを開始したと発表はしたものの、具体的にどの区域で利用可能なのか、また何世帯くらいをカバーしているのかなどの情報は明らかにしなかった。自分の住所が提供区域かどうかは、カスタマーサービスに電話して住所を伝えるか、オンラインで住所を入力してみないとわからないという状況だった。

サービス開始の初日に地元の公共ラジオ放送のTPRがSNSで非公式に実施した調査によると、調査に参加した同市の住民約60人のうちサービス提供区域だったのは11人という結果だった（図表5）¹。同市の中心部ではなく郊外の一部地域から提供を開始した模様だ。

1

<http://tpr.org/post/gigabit-internet-through-att-now-available-some-consumers#stream/0>

【図表5】 サンアントニオでのGigaPower開始日の提供状況（緑は提供可、赤は提供不可）



（出典）TPRのニュース

2-11 AT&TがGigaPowerの拡張を加速

2015年9月、AT&Tはサンアントニオのみならず、他の地域でのGigaPowerの開始も発表した。対象都市はフロリダ州のオーランド、フォートローダーデール、マイアミ、テキサス州ニューブローンフェルズ、インディアナ州ゲーリー。

その翌日にはナッシュビルでもサービスを開始し、アトランタとその周辺サービス地域も拡張したと発表した。両都市とも1Gbpsサービスの料金は月70ドル。アトランタの1Gbpsの料金はそれまでは月120ドルだったのを値下げした。

またシカゴ都市圏の提供都市も追加したが、その際に1Gbpsサービスの単体料金をそれまで月120ドルだったのを110ドルに値下げし、300Mbpsで月80ドルのプランも追加した。

さらに2015年11月、AT&TはGigaPowerの提供地域を23都市追加した。Ars Technicaによれば、今回の対象地域は、既に提供地域になっている大都市圏に含まれる郊外の都市がほとんどだった¹。

例えばアトランタ、シカゴ、ヒューストン、マイアミ、ナッシュビル、オーランドの大都市圏は一部が既に提供地域になっているが、その都市圏の中で提供都市を追加したケースがほとんどだった。

¹ <http://arstechnica.com/business/2015/11/att-expands-gigabit-fiber-to-23-cities-starting-at-70-or-110/>

対象地域における1Gbpsサービスの料金は月70ドルまたは110ドル。このどちらになるかは、Google Fiberが来ているかどうかによる。

アトランタとナッシュビルはGoogle Fiberの提供予定地域になっていたため、AT&Tは1Gbpsサービスを月70ドルに設定し、シカゴ、ヒューストン、マイアミ、オーランドの都市圏では月110ドルにするとともに300Mbpsで月80ドルのメニューも用意した。

AT&Tはさらに2015年12月にはGigaPowerを38都市に追加すると発表した。カリフォルニア州ではサンフランシスコ、ロサンゼルス、サンノゼ、サンディエゴなどの主要都市が含まれていた。

この拡張によりGigaPowerの提供地域は既に提供中の18都市圏と合わせて56都市圏になる。顧客数は公表していないが、この時点でサービスが利用可能な物件数としては100万か所を超えたと発表し、2016年末までには2倍以上にするとしている。

【図表6】GigaPowerの提供地域（2015年12月時点）（緑は提供中、青は拡張予定、オレンジは拡張可能性を検討）



（出典）AT&T/CNN¹

2 - 1 2 ComcastがDOCSIS 3.1で1Gbpsを提供

Comcastは2015年12月、DOCSIS 3.1規格に準拠したケーブルモデムを顧客宅内に設置してのギガビットサービスの試験をフィラデルフィアで開始したことを発表した。世界初の試みと謳っている。

ネットワークは既存のケーブルTV用回線を使用し、モデムを交換してソフトウェアをアップグレードするだけの作業となるので、簡単・迅速・低コストでサービス

¹ <http://money.cnn.com/2015/12/07/technology/att-fiber-gigapower-expansion/>

を導入することができるとしている。

また2016年2月、Comcastは、同方式によるギガビットサービス「Gigabit Internet」をアトランタとナッシュビルで2016年前半に、またシカゴ、デトロイト、マイアミで同年後半に開始する計画を発表した。

アトランタでは2016年3月に同サービスの「高度トライアル」が開始された。下り最大1Gbps、上り最大35Mbpsのブロードバンドを試行的に有料で提供するもので、「トライアル」と称してはいるが、事実上の「Gigabit Internet」のサービス開始となる。

料金は3年契約をすれば月70ドルで、かつ月間のデータ上限なしで利用できるが、3年契約をしなければ月139.95ドルになった上、月間のデータ使用量は300GBに制限される。追加で月35ドルを支払えば月間のデータ上限を撤廃できるオプションも用意した。

3年契約という条件付ではあるにせよ、Comcastの1Gbpsサービスが月70ドルで利用できることなど、それまでには考えられなかったことだ。これもGoogle FiberとAT&Tのおかげ、とConsumeristが伝えている¹。

さらに2016年6月にはナッシュビルでも「Gigabit Internet」が開始された。料金等の詳細はアトランタと同じ。AT&TがGoogle Fiberを意識し、アトランタとナッシュビルにおいて月70ドルの1Gbpsサービスで先制攻撃をかけていたところへ、Comcastが参戦してきた形となった。

2 - 1 3 Google Fiberが大都市への拡張を検討

Google Fiberは2015年12月、拡張可能性を検討する都市としてシカゴとロサンゼルスを追加したと発表した。同サービスの提供地域でこれまでに挙がってきた中では最大の2都市だ。

これまでのGoogle Fiberはどちらかと言えばデジタルデバイドの解消や片田舎の産業振興といった役割に重きが置かれ、大都市への導入は避けてきたような感じがあったが、この発表でその傾向は覆された。

シカゴでは起業が盛んで、ギガビットがスタートアップの成長を助け、IT関連の人材を惹きつけ、雇用の機会を増やすといった効果をもたらすことが期待される。ロサンゼルスではギガビットのおかげでインディーのミュージシャンやYouTubeスターなどがネットの心配をすることなく本業のプロジェクトに集中できるはず。

両都市ともギガビットインターネットで何ができるのかを実証してくれる最適な都市ということで拡張の候補に挙げられた。

¹ <https://consumerist.com/2016/03/15/thanks-to-google-fiber-and-att-comcast-gigabit-service-will-only-cost-70-in-atlanta/>

2-14 Google Fiberがサンフランシスコに拡張

Google Fiberは2016年2月、サンフランシスコに拡張することに決まったと発表した。SFGATEなどが「待ちに待ったニュース」として伝えた¹。AT&TやComcastなども同市にギガビットを提供する予定を発表していたが、まだ開始はしていなかった。

Google Fiberが来るか来ないかで他社の料金や対応も変わるのだから歓迎されないわけがない。しかもカリフォルニア州では拡張可能性を検討する都市に挙げられていたサンノゼ、アーバイン、サンディエゴを差し置いて、サンフランシスコが初の提供予定都市となったことは、住民にとって思いがけない朗報となった。

ただし、サンフランシスコでのGoogle Fiberの展開方法は他の都市とは違っていた。アパートやコンドミニアムなどの集合住宅や低所得者向け住宅が対象で、一般家庭へのサービス提供は予定されていなかった。

光ファイバ網の構築方法も他の都市とは違っていた。自力でゼロから敷設するのではなく、既存のファイバ網を活用する方針を初めて示した。これにより提供地域は限られるが工期やコストが縮減できる。特に地元のサンフランシスコ市にはコスト負担をかけないと明言したことが大きなメリットとして注目された。

2-15 Sonicがサンフランシスコでギガビット開始

2016年2月、Google Fiberがサンフランシスコに拡張すると発表した翌日、サンフランシスコ郊外のサンタローザに本社のある新興事業者のSonicがサンフランシスコでギガビットサービス「Fusion」を開始したと発表した。

しかも固定電話サービス付きで月40ドルという破格の料金設定だ。電話サービスは米国内宛と海外66対地の固定電話宛の通話がかけ放題となる。

サンフランシスコでは大手事業者がギガビットサービスの拡張予定を発表していたが、まだどこもサービス開始には至っていない中、この無名の事業者が同市で初めてのギガビットプロバイダとなった。

ただし当初の提供区域はダウンタウンの西に位置するサンセットとリッチモンド地区というごく狭いエリアであり、サンフランシスコでサービスを開始したというにはおこがましい感もあるが、サンフランシスコ市内であることには間違いない。

同社はサンフランシスコ以外では郊外のブレントウッドとセバストポリという小さな町と、サンタローザなどのビジネスパークなど、極めて狭い地域で数年前からギガビットを提供していた。

¹ <http://www.sfgate.com/business/article/High-speed-Google-Fiber-is-coming-to-San-Francisco-6850338.php>

2-16 Google Fiberのハンツビル拡張に懸念の声

2016年2月、アラバマ州ハンツビルのトミー・バトル市長は、Googleと共同で記者会見を開き、Google Fiberが同市に拡張されることを発表した。Google Fiberとしては提供中と拡張予定を含めると10番目の都市となる。

同市は「ロケットシティ」とも称されるロケット開発のメッカで、NASAのマーシャル宇宙飛行センターがあり、航空宇宙産業の中心地になっている。ギガビットで何ができるのかを例証するにはもってこいの都市というわけだ。

同市では電力・ガス・水道を供給する市営のHuntsville Utilitiesが「スマートグリッド」構築のために6,000万ドルをかけて光ファイバの敷設を進めており、余剰のダークファイバをGoogleにリースすることで合意が成立した。

Googleはこれにより調達した光ファイバでバックボーンを構築し、さらにバックボーンから顧客宅内までの30メートル程度の光ファイバを自ら敷設してギガビットサービスを提供する。2017年半ばから一部の地域で開始し、4年以内に全市をカバーする予定にしている。

ところが2016年5月、Tennessee Watchdogが、Google Fiberによってハンツビルの住民の利益が大きく損なわれるかもしれないと懸念する専門家の意見を紹介した¹。

それによれば、同市は2015年4月、同市全域をカバーする光ファイバ網を構築して市民にギガビットサービスを提供することを目指し、関係者から情報を求めるRFIを発出した。これに対しAT&Tなど13の事業者が情報を提出した。Googleはこれに参加しないと表明していた。

ところが情報提出の期限が過ぎてからGoogleが同市に接触し、「市の取り組みに感銘したので方針を変更した」として、Google Fiberを同市に拡張する話をもちかけた。その後両者間で話が進み、今回のGoogle Fiber拡張の発表に至ったという次第だ。なお、両者の取り決めの詳細については明らかにされていない。

これに懸念を示しているのがIT業界を専門にする独立政策アナリストのステイブン・ティッチ氏。「Googleは遅れてやって来て好条件を手にした」と同氏は述べ、市営ネットワークがGoogleに食べ物にされる危険性を指摘し、警鐘を鳴らしている。

同氏が懸念しているのは、ハンツビルがユタ州プロボの二の舞になるのではないかということ。Googleはプロボ市が3,900万ドルをかけて構築した市営光ファイバ網を1ドルで買い取り、これを拡張・増強して2014年1月からGoogle Fiberを開始した。

プロボの場合、市営光ファイバ網の利用が少なくコストばかり嵩んでお荷物になっていたのをGoogleが引き取って市を救済したようにも見えるが、失敗したネット

¹ <https://tennesseewatchdog.org/expert-warns-google-fiber-may-damage-huntsville-in-a-big-way/>

ワークの処分にも困っていたところにつけ込んで安く買い叩いたとも言える。

納税者保護団体のデイビッド・ウイリアムズ氏も、Googleは市営ネットワークがいずれ失敗する運命にあることを知っていて、買い叩くチャンスをうかがっているとしてGoogleを非難している。

ハンツビルの光ファイバ網構築のために費やされる6,000万ドルは住民が納める税金だ。もし市営ネットワークの運用が失敗してGoogleに安く買い叩かれるようなことになれば、損失を被るのは住民だ。

少なくともハンツビルの住民には、この負担の見返りとしてGoogleが市に何をしてくれるのかについて、詳細な情報を開示する必要があると、ティッチ氏は主張している。

2 - 1 7 Google Fiberのシリコンバレー拡張に難題

Google Fiberのシリコンバレーへの拡張が非技術的なハードルに直面していると、Mercury Newsが2016年3月に報じた¹。そのハードルとは電柱の使用に関する問題だ。

Google Fiberはシリコンバレーの5都市（サンノゼ、パロアルト、サニーベール、サンタクララ、マウンテンビュー）への拡張検討にあたり、電柱の使用可能性を調査していたが、いくつかの都市では競争相手が前に立ちはだかつて電柱が使えない事態に陥っていた。

電柱が使えなければ地面を掘り返してファイバを敷設する手もあるだろうが、MoffettNathanson Researchのアナリストのクレイグ・モフェット氏によれば、光ファイバの敷設は大部分を電柱で行う必要があり、もし電柱が使えなければ先へ進めない状態だという。

同様の問題は他の都市でも起こっており、これがGoogle Fiberプロジェクトがなかなか進まない一因で、場所によっては競争相手が先行してギガビットサービスを開始している理由の一端でもある。

光ファイバの地下埋設はコストが高く、物理的に不可能な場所もあるとして、Googleはカリフォルニア州公益事業委員会（CPUC）に対し、公設・私設の電柱を使用することを権利として認めてくれるよう求めた。

これに対しAT&TやケーブルTV協会は、Googleにはそんな権利はないと反対し、真っ向から対立しているという構図だ。

Googleはさらに、サンフランシスコ近郊のベイエリア一帯の電柱の多くを管理している北カリフォルニア共用電柱協議会がGoogleの電柱使用を拒否していることも指摘した。この団体が管理する電柱を使用するにはメンバーにならないといけない

¹ <http://www.mercurynews.com/2016/03/10/google-fights-att-comcast-over-bay-area-google-fiber-service/>

のだが、Googleがメンバーになりたいと言っても拒否されているという。

連邦や州の法律上、通信事業者とケーブルTV事業者には公設・私設の電柱を使用する権利が認められている。Googleは有線により対価を得てTV番組を提供しているので法律上のケーブルTV事業者に該当すると主張した。これにはCPUCも同意した。

ところが、カリフォルニア州ケーブル・通信事業者協会が、CPUCの判断は間違いだと反論した。CPUCは州法の定義で判断しているが、Googleは連邦法におけるケーブルTV事業者には該当しないので電柱を使用する権利はないというのがその理由。

反対派の言い分は「Google Fiberは規制下のケーブルTV事業者としての権利だけを求め、それに付随する義務を無視している」というもの。権利を享受するには応分の義務も果たすべきだという主張が根底にある。これはなかなか調整が難しそうだ。

それでも都市によって困難さの度合いは異なり、サンノゼでは市議会が2016年5月、Google Fiberに建設許可を付与することを満場一致で可決した。これはGoogle Fiberのシリコンバレー拡張のための重要な突破口になるはずだった。

2-18 ルイビルがGoogle Fiberに有利な決定

ケンタッキー州ルイビルではGoogle Fiberが2015年9月に拡張可能性を検討すると発表して以来協議が進められてきたが、やはり電柱の使用がネックになっていた。

同市の電柱は大半をガス・電力会社のLG&Eが所有し、AT&Tも25%から40%程度を所有していると見られる。各電柱には所有事業者の電線・ケーブルなどの設備だけでなく、所有事業者と契約して電柱を使用している既存事業者の設備もある。

新規事業者が電柱を使用するときは、場合によっては既存事業者の電線を移動させるなどの設備変更作業が伴うので、電柱を使用している事業者の数が多いほど手続きが面倒になる。

既存事業者の設備変更が必要な場合、現行のルールでは各使用事業者がそれぞれの設備を変更することになるので、設備変更作業がすべて完了するまでには非常に時間がかかり、半年かそれ以上になることもある。これが新規事業者のファイバ敷設を遅らせる大きな要因だった。

同市がGoogleとの協議の上で作成した新ルールを含む条例案では、新規事業者が自己の責任において既存事業者の設備を変更できるようにした。すなわち、既存事業者から見れば、自分の設備を他人に、しかも競争相手に触られることになる。

まず反対したのはTWCで、そんなことをされたら自分の設備がどのように変更されたのかさえわからなくなり、もし損傷を受けた場合にすぐに対処することもできなくなり、ビジネスに悪影響が出ると主張した。

AT&TもTWCに追随して反対し、顧客に提供中のサービスが中断される恐れが出

てくるとし、顧客や労働者やブロードバンド事業者の利益が最大限に守られるような取り決めが合意できるまで条例の採択を棚上げにすべきであると主張した。

TWCはさらに、市には電柱に設置した設備を規制する法的権限がないとも主張した。そのような権限は州の公益事業委員会（PSC）が持っているとの立場だ。

これに対し市議の1人は、この現行ルールのために今までどれだけ新規事業者が参入できず、市の発展が妨げられ、市として大きな不利益を被ってきたことかと述べ、既存事業者の懸念は新ルールを反故にするほど深刻なものとは思えないと反論した。

新条例案にはもう1点、新規事業者に有利な新ルールが盛り込まれていた。同市を含むジェファソン郡には80以上の市町村があるが、新規事業者はルイビル市からフランチャイズを取得すれば、他の市町村から個別にフランチャイズを取得することなく同郡全体にサービスを提供できるというもの。

これにはルイビル市とジェファソン郡が2003年に合併して、「ルイビル・メトロ」と呼ばれる統合自治体を構成していたという特殊事情が背景にある。

結局、2016年2月、同市は反対意見を押し切り、23対0の満場一致で同条例を可決した。ただし、新規事業者は架設工事開始の30日前（AT&Tは60日前を主張していた）までに関係事業者に通知して、反論の機会を与えなければならないこととした。

AT&Tはこれを不服として、その2週間後、「ルイビル・メトロ」には電柱への設備設置を規制する権限がないことを理由に、条例の差し止めを求めて連邦地裁に提訴した。

2 - 1 9 Google Fiberがナッシュビルに拡張

Google Fiberがテネシー州ナッシュビルへの拡張予定を発表したのは2015年1月だが、サービスを開始したのは2016年4月のことだった。それもとりあえず4棟のアパート・コンドミニアムを対象とした限定的なもので、比較的静かな開始となった。

同市のダウンタウンの南にある「ザ・ガルチ」と呼ばれる地区にGoogle Fiberのショールーム兼ショップとなる「Fiber Space」がオープンした。対象の住民はここで必要な機器一式を含む「セルフスターターキット」を受け取って、自宅で自ら機器を接続してギガビットサービスの利用を開始することができた。

さらに約200棟の集合住宅が提供予定となっていたが、一戸建てやビジネス向け（もともと企業向けに提供する計画はなかったが、住居用のビルに入っているビジネス向けには提供されることになっていた）にはいつ頃提供できるかの目処は立っていなかった。

ナッシュビルにおけるGoogle Fiberの運用を統括するマーサ・アイベスター氏は、「早期に拡張したいのはやまやまだがそう簡単にはいかない」と述べ、待っている

人たちにあまり期待を持たせないよう、今回はあえて静かに開始したとしている¹。

拡張が簡単にはいかない理由については具体的な説明はなかったが、前項のような電柱使用の問題が大きな理由であろうと考えられる。これに関しては後日、レイビルと同様の訴訟沙汰に発展する（4-4項で詳述）。

2-20 VerizonのFios拡張再開とOne Fiber戦略

Verizonはまだ1Gbpsサービスを提供しておらず（500Mbpsが最速）、それどころか2010年からずっとFiOSの拡張を凍結してきたが、2016年4月、やっとFios²の拡張を再開したことを発表した。

「Fiosがボストンにやってくる」と各種メディアが報じた。単にVerizonがボストンにFiosを拡張したという発表ではなく、ファイバ網構築によりボストンを高度なハイテク都市にするためにVerizonとボストン市が提携したことを、ボストン市長が発表したところが異色だ。

Verizonは6年間で3億ドルを費やし、ボストン全市の銅線を光ファイバに置換することとした。許認可手続きの迅速化でボストン市が協力することも明らかにした。

ボストン市内をAからDまでの4つのグループに分け、グループAから順番にファイバを敷設することにしたが、各グループをさらにいくつかの地区（それぞれの地区を「Fiber zone」と呼んだ。Googleの「Fiberhood」に似ている）に分けて、どの地区から先に開始するかをオンライン投票で決めることとした。Google方式の採用だ。

また2016年7月には、Verizonのローウェル・マカダムCEOが、2016年第2四半期決算発表の中で、固定通信にも無線通信にも使える単一のファイバ網を構築するという「One Fiber」戦略を発表し、ボストンへのFios拡張はその一環だと述べた。

同氏は5Gを「ワイヤレスファイバ」と呼び、これをファイバ網のラストマイルに活用する方針を示した。これによりラストマイルをバーチャル化して、回線敷設の時間とコストを劇的に削減できると述べた。

ボストンでは各家庭に光ファイバが敷設されるものと思われていたが、結局FTTHは最初の数か所だけで、他は無線技術を活用することにしたようだ。これについては、The Huffington Postが「似非FiOS」だとして批判している³。

同誌によれば、Verizonは2010年にFiOSの拡張を凍結し、当時Verizon Wirelessの

¹ <http://www.bizjournals.com/nashville/news/2016/04/27/google-fiber-officially-goes-live-in-nashville.html>

² Verizon は光ファイバサービスの名称を「FiOS」と表記していたが、2015年9月にロゴを変更した際に、「F」以外は小文字の「Fios」と表記するようになった。

³ http://www.huffingtonpost.com/bruce-kushnick/verizons-boston-faux-fios_b_11291330.html

社長だったマカダム氏をVerizon CommunicationsのCEOに据えたときから、「ワイヤレスファースト」の会社になっている。

それ以来、固定部門の投資をどんどん無線部門に回している。低所得者や僻地向けの基本電話サービスを含む固定通信サービスについて、「大規模ファイバ敷設」を名目に申請して認められた料金値上げ分を含め、その収入を基地局建設の費用などに充てている。

「ファイバ敷設」への投資が事実だとしても、それは基地局までのファイバであって、結局は無線サービスのための設備投資だ。その口実として「One Fiber」戦略を掲げているにすぎないと指摘する。

すなわち、固定部門から無線部門への内部相互補助が行われている結果、有線サービスの顧客が支払った料金も無線サービスの拡充のために使われることになっており同誌は指摘する。

さらに、この戦略はボストンだけでなくVerizonの提供地域全体にわたって適用される計画であり、またAT&Tも同様のことをやろうとしていることから、全国的な標準になる可能性があるとして、警鐘を鳴らしている。

3 おわりに

2010年にGoogleが初めてギガビットを発表した際、その目標・目的として、次世代アプリケーション、新たな敷設技術、オープンと選択、既存事業者のサービスの改善、デジタルデバイドの解消といったことを挙げていた。

振り返ってみれば、この目標・目的はかなり達成されている。次世代アプリケーションなど、検証するにはもう少し時間が必要なものもあるが、既存事業者のサービスの改善などは、典型的な「Google Fiber効果」として高く評価されている。

ファイバ敷設のコストが目に見えて下がるということは難しいだろうが、Google Fiberのおかげでファイバ事業への参入に対するハードルが下がったという面がある。需要のあるところだけにサービスを提供するという「Google方式」が受け入れられつつあるからだ。

このように、Google Fiberが巻き起こしたギガビット競争はさまざまなメリットをもたらし、特に利用者や都市にとって大きなメリットをもたらした。

【執筆者プロフィール】

氏名：高橋 陽一（たかはし よういち）

経歴：KDD（現KDDI）にて海外通信事情の調査、サービス企画、海外の通信事業者との交渉、法人営業等を担当した後、1995年よりカリフォルニア支社（ロサンゼルス、サンフランシスコ）勤務。1999年より外資系通信事業者の日本オフィスに勤務。2006年より日本のIT企業にて米国現地法人の設立、運営等を担当。2010年4月よりKDDI総研にて特別研究員として、海外の通信市場・政策動向の調査分析に従事。2011年9月よりサンフランシスコ在住。